

進行方式

SP 型 (圧力進行作動型定量バルブ)

型式	コードNO.	吐出口数	バルブ寸法 (L)
SP-4	205540	4	60
SP-4K	205530	4	
SP-4KS	205551	4	
SP-6	205541	6	
SP-6K	205531	6	
SP-6KS	205552	6	
SP-8	205542	8	75
SP-8K	205532	8	
SP-8KS	205553	8	
SP-10	205543	10	90
SP-10K	205533	10	
SP-10KS	205554	10	
SP-12	205544	12	
SP-12K	205534	12	105
SP-12KS	205555	12	

型式	コードNO.
SPB	611785
SW-10	207611
SPC	611677
SPA-6	619780
SPS	611695
SPN	611784
SPA-4	166005

K: 目視確認ピン付
KS: 近接センサー付

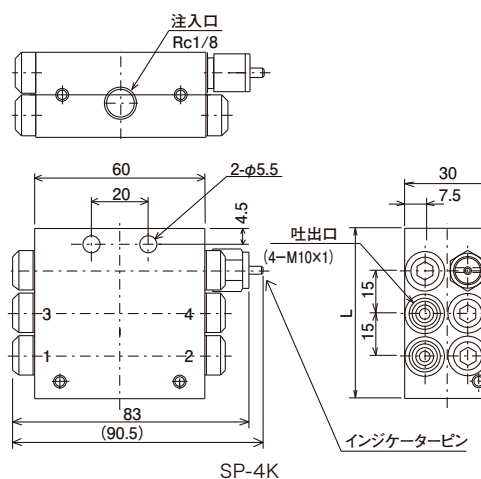


SP-8

仕様

吐出量	0.2mℓ/ストローク
吐出口径	使用管外径 6mm、4mm
注入口	Rc1/8
最大使用圧力	20MPa
最小作動圧力	2MPa
使用ちよう度範囲	NLGI No.000~No.2
監視機構	インジケータピン (K型) 近接センサー付き (KS型)
材質	アルミ

外形寸法図

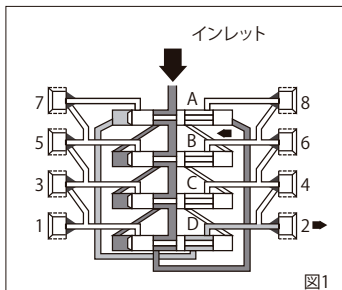


関連部品 ● 関連部品は下記のページをご覧ください。

EGM-50TH P. 42	EGH-3P P. 30	EGH-4C P. 30	圧力計 P. 56	主配管 P. 140	給脂配管 P. 140	主配管用継手 P. 156
配管接続部品 P. 138	アダプター P. 148	KEN-T P. 159	KEN-M P. 159			

作動原理図

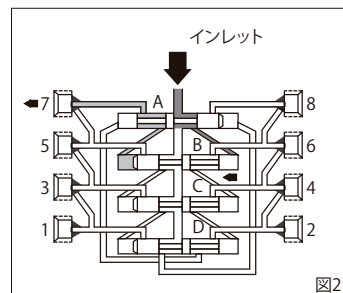
ステップ1



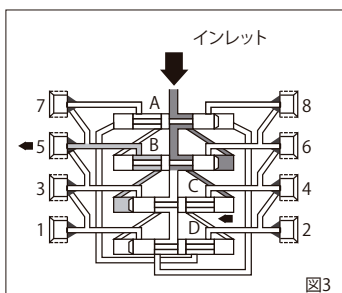
ポンプ又は、グリスガンによって圧送されて来たグリスは、ブロック上部のインレットから入って来ます。送られたグリスは、濃い色で示されたポートを通して、ピストン“A”の右側に至り、ピストン“A”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“A”の左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通して、2番のアウトレットより吐出されます。

ステップ2

ピストン“A”が左方向へフルストロークしますと、図2に濃い色で示されるようにピストン“B”の右面に至るポートがつながり、ポンプからのグリスがこのポートを通してピストン“B”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“B”左側のグリスは薄い色で示されたポートを通して7番のアウトレットより吐出されます。



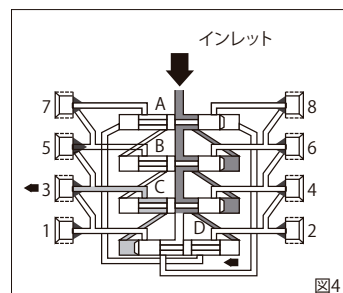
ステップ3



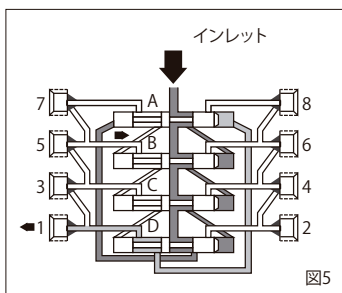
前回と同様に、ピストン“B”が左方向へフルストロークしますと、図3に濃い色で示されるように、ピストン“C”の右側端面に至るポートがつながり、グリスがこのポートを通して、ピストン“C”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“C”左側のグリスは、薄い色で示されたポートを通して5番アウトレットより吐出されます。

ステップ4

ピストン“C”がフルストロークしますと、右図中濃い色で示される様に、ピストン“D”の右側端面に至るポートがつながり、ピストン“D”を左方向へ移動させます。この時、ピストン“D”左側のグリスは薄い色で示されたポートを通して3番アウトレットより吐出されます。



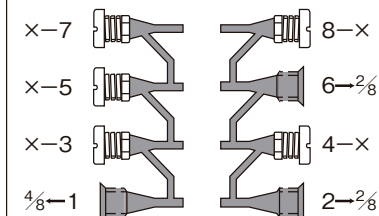
ステップ5



今回は、ピストン“D”がフルストロークした結果、図中濃い色で示された様に、ピストン“A”の左側端面に至るポートがつながり、ピストン“A”を右方向へ移動させます。この時、前回作動油として働いたピストン“A”の右側のグリスは、薄い色で示されたポートを通して1番アウトレットより吐出されます。以後同様の繰り返しで8、6、4、2、7、5、3、1のアウトレットの順にグリスが吐出されることとなります。

吐出量の設定／注意事項

例)



x : 吐出しません。
1 : 4倍の量が吐出します。
2, 6 : 2倍の量が吐出します。

● 吐出量の設定

各吐出口はポンプ作動時に0.2mℓ/ストロークのグリスが吐出されます。一つの吐出口を閉じると次の吐出口にその閉じた分の量が追加され吐出されます。

例) #8を閉じると#6に0.2mℓ×2=0.4mℓが吐出されます。

#7、5、3を閉じると、#1に0.2mℓ×4=0.8mℓが吐出されます。

この様に潤滑点に必要な量を設定することができます。但し、#1、2は切換バルブになっているので絶対に閉じないでください。全体が作動しなくなります。

● 注意事項

1. AP、SP型バルブの吐出口には、専用継手のみ使用してください。
2. グリス吐出口に専用継手のチェック付吐出口ニップルを取り付ける場合、必ずバイパス穴遮断リングがセットされているかどうかを確認してください。又、グリス吐出口にプラグを取り付ける場合は、必ずバイパス穴遮断リングを取り外してください。バイパス穴遮断リングをセットしたままプラグを取り付けますとバルブ全体が作動しなくなります。
3. バイパス穴遮断リングが確実にセットされるように、チェック付吐出口ニップル、もしくはコンプレッションナットを多少きつめに締めてください。
4. グリス吐出口に専用継手をネジ込む場合は、上下どちらか端の方から順番に組みつけていってください。中間の吐出口から組み始めたり、途中をとばしたりしますとスパナが充分に回らず、組み付けできません。
5. グリス吐出口にプラグをネジ込む場合は多少きつめに締めてください。又、一度使用した銅ワッシャーは必ず新しいものと交換してください。